

## ワークショップでの主な意見(※)に対する回答

※ワークショップでは、参加者が考える男女共同参画社会実現に必要なこと、推進すべき施策などについて、ⅠからⅢの基本目標ごとに意見を自由に模造紙に記載していただきました。その中の主なものについて回答します。なお、意見の→は、記載された意見について、別の参加者のコメントを表しています。

### 基本目標Ⅰ 一人ひとりの人権が尊重され安心して暮らせる明るいまちの実現

| 重点目標   | 意見   | 回答   |
|--|--|--|
| 1<br>個人としての<br>尊厳の尊重と<br>性別に基づいて<br>起こる人権侵害の<br>禁止   | <b>* 教育・学習について</b>   |  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭または幼稚園、保育園の頃からの教育</li> <li>・家庭教育の欠如</li> <li>・「教育」という表現だけでは学校教育を連想してしまう</li> <li>・性教育の充実＋男女平等教育→具体的な成果指標、手引きの活用等</li> <li>・男女平等、男女共同参画の教育が不十分</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や家庭、地域など様々な場で男女共同参画を推進する教育・学習を進めることをプランに盛り込む予定です。</li> <li>・男女平等教育指導の手引の活用について、施策の内容や主な事業に明記するとともに、男女平等の内容を含んだ事業を実施したクラスの割合などを数値目標に設定するよう考えております。</li> </ul> |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期からの男女共同参画よりも企業・社会人に対して必要では。</li> <li>・まずは親に対する啓発が必要</li> <li>・公民館の役目は大切→充実させるように</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い年代の市民を対象とした啓発講座などを、さんかく岡山や地区公民館で実施します。</li> </ul>   |
|  | <b>* 人材の育成について</b>   |  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成が講師登用に限定されるのはおかしい。</li> <li>・「さんかくカレッジ修了生」数値目標→「回数」はおかしいのでは？</li> <li>・さんかくカレッジの修了生の講師登用回数について「1人あたり10回以上」とする方がいいのでは？</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見を参考にして、さんかくカレッジは講師登用に限定せず、さんかくカレッジで学習した内容を広く情報発信できる人材育成とするよう見直しする予定です。</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人材の養成」ではなんのための人材か不明。男女共同参画を推進する人材の養成であることを明記してはどうか。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見のとおり「男女共同参画を推進する人材の養成と活用」に修正します。</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会、民生委員など地域のリーダーへの研修が効果的。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見は今後の施策推進の参考とさせていただきます。</li> </ul>   |
|  | <b>* 情報教育について</b>  |  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアリテラシーの重要性。→ジェンダーギャップはメディアの影響が大きい。</li> <li>・メディアについて学ぶ→その中で気づく→変革</li> <li>・メディア自主規制←視聴者の意識が高まればメディアも変わる。市が率先してメディアに働きかけ。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「女性の人権を尊重した表現の推進のための基盤づくり」の具体的施策として情報教育の推進を盛り込む予定です。</li> </ul>  |
|  | <b>* 地域における幅広い年代、多様な立場の人との交流</b>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のカリキュラムの1つとして子どもとお年寄りの関わる場</li> <li>・先生、親以外の大人との関わり→考え方、様々な意見を得ることが重要</li> <li>・3世代がふれあえる祭りなど地域イベント、活性化</li> <li>・いろいろな人との関わり場</li> <li>・3世代同居のよさを見直す←祖父母が子どもをみるのが当たり前ではない！←現実に難しい？</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見は庁内の関係課で共有し、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</li> </ul>  |  |

|  |   |  |
|--|---|--|
|  | <p><b>* 人権尊重や困難を抱える人への支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LGBTを含む、人権の尊重</li> <li>・外国人の人権の尊重</li> <li>・個性を活かした、障害があっても孤立しないで暮らせる、地域とのつながり(精神障がい者と地域の交流も)</li> <li>・シングルマザーも安心して育てられるように社会保障制度をトータルで見直した方がいい</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権の尊重は全ての施策の基盤となるものであり、基本目標Ⅰに位置づけるとともに、性の多様性についての理解促進を「性と生殖の健康と権利及び生涯を通じた健康支援」の施策に盛り込む予定です。</li> <li>・ひとり親家庭の自立への支援など、困難を抱える人への支援を「個人としての尊厳の尊重と性別に基づいて起こる人権侵害の禁止」に盛り込む予定です。</li> </ul>   |
| <p>2<br/>配偶者等からの<br/>暴力防止など</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(DV防止のために)言葉で伝えるコミュニケーション→暴力の防止(子どもの頃から)</li> <li>・DVの未然防止→メディアの影響が大きい</li> <li>・デートDVへの対策</li> <li>・若い女性への啓発が重要</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者を被害者にも加害者にもしないために、予防啓発が重要と認識しており、「配偶者等からの暴力防止及び被害者支援の推進」に盛り込み、デートDVの啓発など効果的な事業実施に向けて検討します。</li> </ul>  |
| <p>3<br/>性と生殖の健康と権利の確保及び生涯を通じた健康支援</p> | <p><b>* 性と生殖の健康と権利</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リプロの理解促進が重要。産まない選択肢もあるし、産めない人もいる。</li> <li>・個性が大切にされてこそ「性と生殖の健康と権利」が成り立つ</li> <li>・学校教育、性教育の重要性・妊孕性←妊孕性を知らることが重要</li> <li>・若い女性への性教育</li> </ul> <p><b>* 生涯を通じた健康づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくり→高齢者のことが入っていない</li> <li>・元気で外に出ることによって新しい発見がある</li> <li>・元気なお年寄りの比率を知りたい</li> <li>・シルバー、高齢者より「シニア」が聞こえがいい</li> <li>・福祉の充実？スポーツジムより市の施設を充実させて。</li> <li>・骨密度(骨粗しょう症)を指標にいれではどうか。(女性の健康に重要)</li> </ul> <p><b>* 多様な性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな違ってみんないい！ 性の多様性について理解促進</li> <li>・LGBTについて大学の授業で初めて知った。高校の講演会でも。中学生では？？？ →全ての人に知ってほしい。</li> <li>・TVのタレントのイメージ強い。一般の人も、あなたの周りにもいるよ。知らないだけ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見を踏まえ、性と生殖の健康と権利について、自分たちの子どもの数や出産する時期、また産むかどうかも含めて、一人ひとりの個性や考え方が尊重され、自己決定することの重要性を「性と生殖の健康と権利及び生涯を通じた健康支援」に記載する予定です。</li> <li>・ご意見を踏まえ、妊孕性や性教育についての啓発や教育を重点目標3「性と生殖の健康と権利及び生涯を通じた健康支援」の施策に盛り込む予定です。</li> <li>・ご意見は庁内の関係課で共有し、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</li> <li>・ご意見を踏まえ、性の多様性についての理解促進を「性と生殖の健康と権利の確保及び生涯を通じた健康支援」の施策に盛り込む予定です。</li> </ul> |

## ワークショップでの主な意見(※)に対する回答

※ワークショップでは、参加者が考える男女共同参画社会実現に必要なこと、推進すべき施策などについて、ⅠからⅢの基本目標ごとに意見を自由に模造紙に記載していただきました。その中の主なものについて回答します。なお、意見の→は、記載された意見について、別の参加者のコメントを表しています。

### 基本目標Ⅱ 多様な意見が生かされ互いの生き方を認め合えるまちの実現

| No   | 意見   | 回答  |
|--|--|---|
| 4<br>固<br>定<br>的<br>な<br>性<br>別<br>役<br>割<br>分<br>担<br>の<br>解<br>消                     | <p><b>* 地域・家庭・職場における固定的役割分担</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会など地縁組織の会長職は男性がほとんど。同じ人が長くするのではなく会長職の任期を定めてはどうか。</li> <li>・高齢者にもっと活躍の場を！</li> <li>・地域のつながりや老人会、清掃ボランティアなど、まずは参加してみることが大切。</li> <li>・家庭生活(家事、育児など)で女性の負担が大きく不平等</li> <li>・働いていても女性に子育てや家事、妊娠・出産などで負担が大きい。学校などでの教育がもっと必要。女性が働くということへの意識がまだ十分ではない。</li> <li>・防災や理工系など女性の参画が少ない分野へ女性が進むためには祖父母や親世代の理解促進が必要。</li> <li>・学校では平等だが、社会にでるとつまづく。男性は育休や子どものための休みがとりづらい(平等ではない)</li> <li>・男性は育児休暇がとれない。</li> <li>・男はこうあるべきというプレッシャーが大きい。</li> <li>・「良妻賢母」の女性像を変えよう！</li> <li>・北欧は進んでいる まだまだ日本は性別による役割分担意識が強い。</li> <li>・職種で男女の区別が少なくなっている。</li> <li>・看護師も男性が増加している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に依然として根強く残る固定的な性別役割分担意識の解消に向けて、学校や家庭、職場など、さまざまな場において授業や研修、講演会などを実施し、意識啓発に努めます。</li> <li>・市の実施する固定的な性別役割分担意識を解消するための啓発講座の受講者数を数値目標に設定するとともに、「男は外で働き、女は家庭を守る」という性別役割分担意識の解消度や、男性の家事・子育ての分担割合、事業者における性別役割分担の解消度を成果指標に設定し、施策の効き目を把握するよう考えています。</li> </ul> |
|  | <p><b>* 統計情報の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダー統計を岡山市で作る→啓発に活用する</li> <li>・数値をだす時に男女の区別をしてほしい。ジェンダー統計の充実。統計に予算をつける。</li> <li>・男女別の統計で数値を把握し、毎年なにができていないか客観的に洗い出し、次のプランに重点的に反映。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画の状況を把握する統計情報の収集、整備、市民に分かりやすい情報提供に努めます。</li> </ul>   |
| 5<br>解<br>国<br>及<br>際<br>的<br>の<br>協<br>調<br>取<br>組<br>に<br>関<br>連<br>し<br>て<br>の<br>理 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の住みやすいまちにするため、援助を増やしたいのでは</li> <li>・国際交流の場がもっと必要</li> <li>・言葉がわからなくても通じる</li> <li>・外国人の雇用の場 雇用確保(定職)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見を庁内の関係課で共有し、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</li> </ul>   |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「外国人」という言い方ではなく“多様な異文化”を認めるとしてはどうか。“異文化、多様性”はどうか。</li> <li>・外国人への支援は基本目標1に入れる方がよい。子どものいじめも含まれる。外国人やこどものいじめなど、人権の尊重につながる事。</li> <li>・「国際的な取組」を男女共同に結びつける必要ある？</li> <li>・外国人の方と分かりあえる場がない</li> <li>・留学生との交流</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山市に暮らす外国人の支援や、地域社会への参画促進について、ご意見を踏まえ検討します。</li> </ul>  |

|   |  |   |
|---|--|---|
| 6<br>市と市民等とのパートナーシップによる協働   | <b>* 多様な意見を市政に反映</b>   |   |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・少数派の意見をくみ取る事が大事。その機会がもっとあればよい。</li> <li>・少数派にはセクシュアル・マイノリティもいる 女・男だけではない視点で・</li> <li>・子育て世代の人たちが意見を言えるようにしてほしい。子供をつれてこのようなワークショップにはなかなか行けない。</li> <li>・多様な意見をもっと市民が言わないといけない</li> <li>・市民の意見をもっととり入れてほしい</li> <li>・行政に対する意見がなかなか取り入れてもらえない</li> <li>・行政に意見が言いにくい(敷居が高い)→自分の意見が伝わるかな?「私」の意見が活かされたら、もっと参加したくなる</li> <li>・さんかくカレッジ卒業生を審議会や実行委員へ活用</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見は庁内の関係課で共有し、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</li> </ul>   |
|   | <b>* さんかく岡山について</b>  |   |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さんかく岡山では政策提案できない… ←民間運営は?</li> <li>・さんかく岡山の施設の老朽化に力を入れるべき</li> <li>・さんかく岡山の支部を作ったらいいのではないか(遠いから来れない人もいる。)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見を今後の施策推進の参考とさせていただきます。</li> </ul>  |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録団体の活用、意見をもっと聞く</li> <li>・「さんかく」を民間に委託しては?→直営としての良さもある。何をしても市の枠にはまる→岡山市は市民を「客」としてしか見ていない→毎年同じ人、事なかれ</li> <li>・達成感が得られるようにしてほしい(さんかくウイークイベントなど)</li> <li>・ジェンダーの視点で市民が提案した講演会の開催をもっとしたらいいのではないか。市民が提案しやすくなるように。</li> <li>・市民協働の事業の募集回数をふやしてほしい(さんかくウイーク以外で)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見を踏まえ、登録団体や市民と協働し、さんかくウイークや市民協働事業を推進するため、意見交換や事業実施方法の見直しを検討するなど、より連携を深め、さんかく岡山の活性化に努めます。</li> </ul> |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さんかく岡山で30代、40代の女性が参加できる企画を!</li> <li>・30代、40代の女性に向けた啓発が重要</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・より幅広い年代の市民にさんかく岡山を利用してもらうため、市民のニーズに応じた講座等の充実に努めます。</li> </ul>   |
|   | <b>* 地域での活動</b>  |   |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人に男女共同参画についての活動をもっとしてほしい</li> <li>・3世代の交流が重要。</li> <li>・男性を地域活動に引っ張り出すには?(介護など)</li> <li>・70代、80代の世代が30代、40代に地域活動への参加を働きかける</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代や男性も含め、広く男女共同参画に関する啓発を行うとともに、地域活動への参加促進に向けた学習機会の充実等に努めます。</li> </ul>                              |
|   | <b>* その他</b>   |   |
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さんかくプランの言葉・文章が難しい</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さんかくプランの作成にあたり、なるべくわかりやすい表現となるよう努めます。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査だけでは× さらに深く調べなければ改善・実践に向けた評価・検証はできない。</li> <li>・税制度などいろいろな制度を変えていかなければいけない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見を今後の施策推進の参考とさせていただきます。</li> </ul>   |   |

## ワークショップでの主な意見(※)に対する回答

※ワークショップでは、参加者が考える男女共同参画社会実現に必要なこと、推進すべき施策などについて、ⅠからⅢの基本目標ごとに意見を自由に模造紙に記載していただきました。その中の主なものについて回答します。なお、意見の→は、記載された意見について、別の参加者のコメントを表しています。

### 基本目標Ⅲ 性別にかかわらず、誰もが能力を発揮し活躍できる活力あるまちの実現

| No               | 意見  | 回答   |
|------------------|---|--|
| 7<br>仕事と生活の調和の推進 | <b>* 働き方や意識の改革</b>  |  |
|                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の長時間労働をやめさせる(子育てに参加できない)</li> <li>・企業の長時間労働解消！！</li> <li>・子どもの成長に応じた仕事の仕方ができるとよい。</li> <li>・産休・育休の人員補充がないと産むことやタイミングが難しい。</li> <li>・家で仕事ができるようにするなど多様な働き方ができるとよい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間労働を前提とした従来の働き方の是正に向けて、企業等の経営者や管理職を対象とした啓発や、先進的な取組みを紹介する情報発信など、企業等における働き方改革をプランに盛り込む予定です。</li> </ul> |
|                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て・家事に男性はどう関わるか。</li> <li>・結婚、出産しても女性が働き続けられるように。ワークライフバランスが重要。</li> <li>・男性も女性も 家庭生活と仕事の両立の難しさ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てや家事と仕事の両立を支援する休暇制度や、短時間勤務制度など、企業等における多様な柔軟な働き方を進めるとともに、男性の家事・育児への参加を促進することをプランに盛り込む予定です。</li> </ul> |
|                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の再就職への支援が重要。</li> <li>・女性自身も意識を変える必要がある</li> <li>・女性のスキルアップ、資格取得なども大切</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の希望に応じた働き方や、キャリア形成、再就職への支援をプランに盛り込む予定です。</li> </ul>  |
|                  | <b>* 企業の取組み促進、働きかけ</b>  |  |
|                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場環境の改善、ノルマをなくす、休み時間を義務化。</li> <li>・育児休業など両立支援制度の充実</li> <li>・LGBTなど性の多様性も認めながら職場で個性を活かす</li> <li>・男性上司の意識の改革必要</li> <li>・社員教育のためには経営者、管理職のリーダーシップが大切</li> <li>・ワークライフバランスによって業績アップ、優秀な人材確保などメリットがあることを理解することが重要</li> <li>・企業の意識を変えることが重要</li> <li>・企業内保育所を設置するなど企業も改善するように努める。</li> <li>・企業内保育所などへの予算支援</li> <li>・女性管理職比率を企業にも出させる</li> <li>・市職員の男性の育休を必須に。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の経営戦略としてのワークライフバランスの重要性についての啓発や情報発信、誰もが能力を発揮できる職場環境づくりへの企業の取組み促進などをプランに盛り込む予定です。</li> </ul>          |
|                  | <b>* 保育等サービスの拡充</b>   |  |
|                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・核家族、共働きでどちらが迎えに行くかでケンカ。</li> <li>・病児保育を増やしてほしい。保育園に併設しては。</li> <li>・保育園に熱で迎えに行くのは妻が多い。</li> <li>・延長保育代を安くしてほしい。</li> <li>・保育士・福祉関係の処遇改善(給料アップ)</li> <li>・空き家、空き幼稚園を保育園に活用しては。</li> <li>・保育サービスの充実、待機児童の解消。</li> <li>・認定子ども園を30に！</li> <li>・子育て支援センターの質の充実</li> <li>・保育園に入れないと2人目、3人目がつくれない。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して子育てと仕事の両立ができるように、待機児童の解消や、病児保育、延長保育など、多様なニーズに対応する保育サービス、放課後児童対策等の充実をプランに盛り込む予定です。</li> </ul>       |

|                        |  |  |
|------------------------|--|--|
| 8<br>働く場における女性の活躍推進    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方の改革や女性活躍は大企業はできても中小企業では難しい。</li> <li>・お互いの人格を尊重し違いを認める。</li> <li>・管理職の社会への貢献度で表彰されるシステムを。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の中小企業に向けた効果的な啓発や、優れた取り組みを実践する企業の顕彰などについて検討してまいります。</li> </ul>  |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・賃金格差の解消</li> <li>・過労死の自殺の問題 経営者の意識が問題。罰則を強化。</li> <li>・法制度の充実。罰則をつくる。</li> <li>・出産を機に辞めさせられる。マタハラ。</li> <li>・マタハラ、パタハラへの対策、実効性が大切。</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マタハラなどへの対策や長時間労働の是正、労働関係法令の順守など、関係機関等と連携し、取り組んでまいります。</li> </ul> |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産業も町内会も女性の進出を！ 規約改正で組織改革する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな分野の意思決定の場に女性の参画拡大をプランに盛り込む予定です。</li> </ul>                  |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、男性社会(優位)になってきたのか、原因を考えるべき。(現状を知って対策を立てる)</li> <li>・若手の育成(すでに育っているのに活躍できない?)=情報も人脈もある→フェイスブックなど活用している!</li> <li>・若手の活用</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見は今後の施策推進の参考とさせていただきます。</li> </ul>                             |
| 9<br>女政共策同・参画針の決定過程への男 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の職員や議員を男女半々にしたらいいのではないかな。</li> <li>・まずは市職員がモデルを示す。</li> <li>・市役所の柔軟な働き方の手本→企業へ広げる</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市職員の時間外勤務削減に向けた取り組みや、仕事と家庭が両立できる職場環境整備などを進めます。</li> </ul>        |
|                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の女性の管理職比率だけでなく企業を含めた比率を知りたい</li> <li>・審議会の委員に年齢制限を設定しない。高齢者の意見が反映されない。</li> <li>・市民が男女共同参画や女性活躍を身近に感じるができるよう工夫が必要(ワークショップのネーミングを「市政」ボヤキ会にするなど。おもしろおかしく参加できるように!)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見は、今後の施策推進の参考とさせていただきます。</li> </ul>                            |